



研究所 万代島
新潟市水産研究所
印刷所 第一印刷所
株式会社 第一印刷所

日本海

京都府における

「中羽イワシ漁況予報」

の問題点について

栗田正人

北部日本海における大羽イワシの漁況予報が軌道に乗り、非常な成果を収めている。今日、従前より裏日本において重要な地位を占めている中・小羽イワシはその重要度の割合に研究面では後進的である。

(1) 海況と漁況について
1 春早い時期(三月～四月)において平年より高温高鹹であることは、本海域に中羽の添加群の来游を促すことになる。このことを示唆する材料として一九五四、五五年の海況があり、逆の事例が五六、五七年の不漁時に現われているようである。五六、五七年の特徴ある低温現象は他海域からの添加をサービスし、裏付けは十

(2) 平均体長と漁況について

最近四ヵ年の漁況と月別の平均体長を見ると豊漁年の一九五四年(四・五・六月)の平均体長は不漁年のそれより非常に小さかった。

(3) 平均脊椎骨数と漁況について

1 豊漁年(五四・五五年の四・五・六月)は平均骨数が低く、不漁年(五七年)には平均骨数が高く、不漁年(五七年)に高い傾向を示している。このことは若狭湾に平均骨数の高い紳立群のあることを想定せしめ、早春以降の海況によつて豊漁年は他海域からの平均骨数の低い添加群によつて平均値が低下するのである。

2 同一の体長において、平均骨数の分布範囲に大小のあることは発生環境を異にした魚群の混合状況を示すもので、本海域の一一二二種以下の小羽につ

分ではないが、平均脊椎骨数の特に高いと目される本海域の独立群を孤立させたようである。

2 五・六月になつて暖流沿岸分枝の発達に伴い本海域の中羽群は添加群との混合の増大によって大きくなつて、本海域の中羽群は添加群との混合以前の現象のように見做されたようである。

3 接岸に伴い本海域の中羽群は添加群との混合によって大きくなつて、本海域の中羽群は添加群との混合以前の現象のように見做されたようである。

以上の諸点とマイワシ全体の成長段階別漁獲量組成の経年変化を考え合わせると、3 中羽の不漁の年の三月至四月の平均骨数は前年の秋の小羽のそれと対応する傾向が見られるが、この事は前年秋の小羽の越冬群が本海域に存在し来游添加群との混合以前の現象のように見做される。

そこで今後は関係地域の研究陣との緊密な連絡と組織化により漁場環境研究は勿論のこと固有独立群と添加群との混合過程研究等多くの山積した重要問題の水解に努力を傾注せねばならないことを痛感する次第である。(筆者京都府水産試験場技師)

去る六月一三～八月二日に亘つて、日本海沖合を漂流した調査隊員下村開発部長以下隊員を迎えて、調査結果報告会並に歓迎会が去る九月四日、日本水研講堂で開かれた。

講演と研究会

丹後方面は、近年不漁がつづいている

ので、更に漁業を合理化すると共に今後に於ける漁業の方向を各自において自覚する目的で、府漁連主催で日本水研の内橋所長を招いて去る九月九日宮津市で、「漁具に対する魚群の行動と京都府漁業の将来」についての講演会を開き、統一して漁民との研究会を開催した。出席数一二〇名。盛会であった。

（京都府漁連）

海洋筏日本海号漂流結果報告会

1 豊漁年(五四・五五年の四・五・六月)は平均骨数が高く、不漁年(五七年)には平均骨数が低く、不漁年(五七年)に高い傾向を示している。このことは若狭湾に平均骨数の高い紳立群のあることを想定せしめ、早春以降の海況によつて豊漁年は他海域からの平均骨数の低い添加群によつて平均値が低下するのである。

尙、詳細な学術的報告は、本年未までに

筏活用の有意義なことが述べられた。
調査会によつて、発表される予定になつてゐる。

（日本水研）

主なる項目

— 第 80 号 —

- 日本海
- 海洋筏日本海号漂流結果報告会
- 講演と研究会
- 富山県総合開発審議会より答申した水産計画案
- アメリカ便り
- 魚探
- 新著紹介

富山県総合開発審議会より

答申した水産計画案

富山県では過去四ヵ年間実施して来た総合開発計画を修了し、今後四ヵ年間にそれを実施して、漁業の振興と国民福祉の増大を図るため、それぞれ専門委員を依嘱して、総合開発計画を立案検討中のところ、去る九月未計画案が答申された。その中の水運計画の大要は次の通りであつた。

(富山県総合開発専門委員会)

一、問題点の概要

(1) 水揚高の漸減と漁民、漁船の相対的過剰による沿岸漁業の行詰り

(2) 沖合、県外、北洋漁場における入漁先の拒否と漁獲制限等による漁場転換の困難性

(3) 沿岸漁獲物減少防止のための水産資源涵養事業の不振

二、計画の方針

(1) 水揚高の漸減と漁民、漁船の相対的過剰による沿岸漁業の行詰り

(2) 沖合、県外、北洋漁場における入漁先の拒否と漁獲制限等による漁場転換の困難性

(3) 沿岸漁獲物減少防止のための水産資源涵養事業の不振

(4) 北洋漁業

由来水産業は魚群の洄游天候等の自然的条件に大きく左右され、常に生産が不安定であるのに加え、特に沿岸漁業は漁民と漁船の過剰のため窮屈をつづいているので、沿岸漁業の生産の安定増大を極力沖合、県外北洋漁場へ転換を図ることを基本方針としがたため基地漁港の整備漁船の建造近代化、新漁場の開拓、沿岸漁況予報調査並びに入漁規則に重点を置くものとする。

(5) 港湾整備

漁船の大規模化の傾向に対し漁業基地の整備はかなり立派れを示しているが沿岸より沖合、県外、北洋漁場への転換を図るには、基地漁港の整備が必要となる点よりして大型船用漁港の転換の転換を図るものとする。

(1) 沿岸漁業

新興漁業である立網漁業、四隻張網漁業及び刺網漁業に進出せしめることとて漁船の近代化を図ると共に定置漁業については漁況予報調査に重点を置く、又沿岸水産資源の涵養対策として築港事業を推進する。

(2) 沖合漁業

沿岸漁業者を積極的に富山湾及び近県冲合のいか釣漁業、延縄漁業に進出せしめることと之がため必要な新漁場の調査開拓に重点を置き対馬暖流極端線の有用魚類の網別調査、並びに富山湾及び近県沖合漁場調査を行う。

(6) 漁船整備

漁獲高は自然条件もさることながら漁船の性能に左右される処が大きいので、沿岸漁船整備促進要綱に基いて、漁船の過半数をしめる無動力船の動力化、共同化、老朽漁船の代替建造及び大型化、近代化を促進する。

(7) 浅海増殖

本県海岸は一般に急深で増殖の適地は狹少であるが、なお有用藻類の増殖が期待されるので、岩礁爆破、投石事業に重点をおき三五年までに約二万貫の増産を図る。

(8) 内水面漁業

年々漁獲減少の処があるので特に増殖に重点をおき人口ふ化放流を行なうと

共に、内水面を利用する養鰐、養鯉の振興を図る。

(9) 水産加工

水産加工品の品質の向上、コストの切下げを図るため、施設の近代化に重点を置く。

(10) 漁業資金対策

漁船建造、漁網整備等漁場転換に必要な設備資金の確保を重点をおいて系統金融機関よりの融資獲得に努める外、系統金融機関に対する県費預託信用保証制度の合理化によつて運輸資金の確保を図るものとする。

模漁港としては沿川、経田、四方、各漁港の早期完成を図る外水橋、生地、宮崎、宇波等各港の整備を図るものとする。

アメリカ便り

ラホヤに来て以来二ヵ月半になるのにラホヤ、サンチエゴ近郊以外を一度も出あることがない。是非ロサンゼルス位には行つてみたいと思つて、機会を待つたのですが、いつも土、日曜となると何か用事が出来たり、デイトがあつたり（と云つても女人ではないから御安心下さい、男同志でもデイトと云う言葉は使ひます）して果さなかつたのでした。

九月二日午前一〇時一五分、サンチエゴ発ロサンゼルス行「サンデーエガーン」という汽車にのりました。先づ切符を買つてのことから話すと、出札口は日本のようにならぬでなく、交通公社のカウンタのよう窓ではなく、開つぱなしです。ロサンゼルスまで二等往復といつたら、六ドル六〇セント毎度あります。切符とは同じですが紙ははるかに悪く荷札のような紙の切符（往復三枚づき）です。駅には改札口もプラットホームもなく、いきなり列車にのるわけです。ドアの入口の所に黒人のボーリーが立つて、これに切符を見せると案内をしてくれます。車室は丁度日本の「特二」と同じですが、客車もわつと大型だし、座席もはるかにゆったりとしています。一箱毎に前に喫煙室と洗面所、便所、後に荷物（チャッキ置物）と婦人洗面所、同便所があります。座席の背中を倒してよりかければ日本人なら足を懶々と伸ばせる位です。時間になつたらベルも鳴らず、汽笛もならないでいります。車掌は丁度日本の「特二」と同じですが、客車もわつと大型だし、座席もはるかにゆったりとしています。一箱毎に前に

喫煙室と洗面所、便所、後に荷物（チャッキ置物）と婦人洗面所、同便所があります。座席の背中を倒してよりかければ日本人なら足を懶々と伸ばせる位です。時間になつたらベルも鳴らず、汽笛もならないでいります。車掌は丁度日本の「特二」と同じですが、客車もわつと大型だし、座席もはるかにゆったりとしています。一箱毎に前に

ると、今度は「私は朝からたべていない。コーヒーをのむため五仙くれ」というので手まねでどこまでも吸い下つてきて五仙くれというのです。うるさくなつたのでダイン（二〇仙）を一つやつたらペコペコしていました。ロサンゼルスの第一印象が乞食とは驚きました。あとできいたらこの乞食は外国人と見るとタカルのだそうです。米人は追つぱらうそうです。

このわきには有名な立体交叉のハイウェイがあります。カナダ国境からメキシコ国境につづく U.S. 1 と東に走る U.S. 70 といいう二つのハイウェイを一秒間に数台のわりに四列に並んだ車が時速七五マイルの高速度で四方に飛んで行きます。まさに世界の壯觀です。そこからさらに行くと左手に「富士薬局」とかいたネオンが目に入りました。つづいてその向うに「都ホテル」とかいた同じく日本語のネオンが目につきました。小東京 (Little Tokyo) です。目の前のおレンヂ色の市電、ハリウッド行が音もなく走つて行きました。本当に音もなくとつても静かです。空氣軸承を使つているのだそうです。

ここはブロードウエイです。サンチャエゴ市よりは更に一段と立派です。デパート専門店がズラリと並んでいます。メキシコ人の食堂もあり、店の看板も説明もスペイン語ばかりで書いてある店もあります。メキシコ酒場を一寸のぞいて見ました。奥ではマンドリンのような樂器をならして中米音楽をやつており、お客様が酒をのみながらそれに合せて歌っています。歌うといつてもそれがちやんと立派な男声合唱です。いかにもエキビックな感じです。サンチャエゴもそうですがロサンゼルス

でもやはりブロードウエイ五番街というのが町で一番賑やかな所です。きっとニューヨークの真似をして作つたのではないでしょか。そう云えば銀行の中心はどこでもウォール街のようです。ラホヤでもウォール街が金融中心です。ブロードウエイの見物を七番街位まで見ました。映画館で「七人の侍 (MAGNIFICENT SEVEN)」八月十五夜の茶屋がかかつており、PHANTOM HORSES (幻の馬) の予告ポスターが出ています。次は EAST 1ST STREET SAN PEDRO STREET, COMMERCIAL STREET 等の見物です。ここが「小東京」です。「秋の婦人服大売出し、伊東洋服店」、「近刊書籍雑誌多数入荷、東京書房」こんな看板をみていると日本に帰つたような錯覚を起します。街を歩いているのは少くとも日本人の顔をしているし、日本語で話しながら歩いているのです。しかし気がついて見ると歩いているのは中年以上の人が多く若い人はあまりいません。しかしどうもやはり裏町の感じで、その点メキシコ人街より格がおちます。日本語とはいいうもののやはり少しおかしいようです。「インカ、ム・タキス、ビデネス、ブックキービングの相談は是非当店に」とか「高級住宅のリースあり、ガレージ附三三、〇〇〇ドルダウン、〇〇ドル」「日本酒ビヤワイン」などというのはやはりどこか日本離れしています。日本なら「所得税及び簿記の相談云々」「高級住宅の分譲、車庫附云々、二三、〇〇〇ドル、内金三〇〇ドル」日本語化している英語の發音だけは米國発音そのまま使つてゐるので一寸おかしくきこえるのです。食堂に入るときファーカウントの前に日本の食堂や居酒屋の様に木札に白字で献立がグラ下つています。

◎新著御紹介（日水研）

M. E. Brown 編集 The Physiology of Fishes 全2巻

魚の生理学については、本邦に川本信之博士の魚類生理学があつて、斯学の参考書として役立つてゐること多大である。ところが、今回外國文献として紹介する前掲著作は23人からなる魚類生理学者がそれぞれ専門部門に亘つて、執筆しているもので、参考文献も充実に挙げてあつて便利である。しかし、各人の執筆であるため記述や図版や引用文献の記述に不同があるのは致し方のないことであるが、魚類生理学に関することは条件反射の問題までも含み、各項目に亘つて總括されており特に行動などについては、從来に見ない新分野が展開され水産研究者にとって必読の書と云つても過言でなかろう。次に内容の主な項目及執筆者の大見出のみを掲げて参考に供したい。

1. Respiration

The aquatic respiration of fish
(F. E. J. Fry)

Air breathing (G. S. Carter)

2. The Cardiovascular system
(J.C. Mott)

3. The alimentary canal and digestion (E. J. W. Brington)

4. Excretion and osmoregulation

(U. S. Black)

5. The skin and scales

(J. Van Osten)

6. Endocrine organs (W. S. Hoar)

7. The gonads and reproduction (W. S. Hoar)

8. Early development and hatching (S. Smith)

9. Experimental studies on growth (M. E. Brown)

10. The biochemical composition of fish (R. M. Love)

(以上第1巻)

11. The nervous system (E. G. Healey)

12. The sense organ

The eye (J. R. Brett)

The acoustico-lateralis system
(O. Lowenstein)

Olfactory and gustatory senses of fish (A. D. Hasler)

13. Behavior

Conditioned responses

(H. O. Bull)

The ethological analysis of

fish behavior (G. P. Baerende)

Reproductive and parental

behavior (L. R. Aronson)

14. The swimbladder

(F. R. H. Jones)

15. Electric organs (R. D. Keynes)

16. The luminous organs of fishes (E. N. Harvey)

17. The pigments of fishes (D. L. Fox)

18. Color changes (J. M. Odiorne)

19. Water quality requirements of fish and effects of toxic substances (P. Doudoroff)

20. Physiological genetics of fish (M. Cordon)

(以上第2巻)

日水研研究報告第六号は対馬暖流調査開発以来の調査研究を取纏めたもので、二編の報文三四二頁のものである。

(日水研)

日水研研究報告発行さる